

北海道大学病院 安田 和則 教授 来院

H24年9月21日に北海道大学病院の安田教授が当クリニックに来院されました。

来院に至った経緯として・・・今年2月に江本院長、樋口看護師長、池田理学療法士が北海道大学の安田教授の手術見学に行ってきました。研修後、当クリニックでも学んできたことを取り入れ、手術やリハビリを行ってきました。そして、今回縁あって、安田教授が当クリニックに来院、手術を施行して頂けるという運びとなりました。

今回は、安田教授、近藤先生、福井先生の3名が来院されました。

安田 和則 教授 日本を代表する世界的に有名なドクター

北海道大学大学院医学研究科 運動機能再建医学分野 教授

前十字靭帯再建術で解剖学的二重束再建術を世界に広めた代表的なドクター

今回、安田教授、近藤先生、江本医師、湯朝医師で2人の患者さんに手術を行わせていただきました。

手術中は、時にはレクチャーも交え、コツや落とし穴などの説明もして頂きました。安田教授は、「Remnant Preserved ACL Reconstruction Technique」という手技の第一人者です。この方法は損傷しているACLを温存した状態で、残された靭帯の繊維束に再建靭帯を通すことで、より解剖学的な位置に再建する方法です。

手術後には、X線画像を診ながら、骨孔の位置などの意見交換も行われました。また、見学をさせて頂いた私たち理学療法士の質問にも丁寧に答えて頂きました。



～会食・ディナーミーティング～

夜は、安田教授、近藤先生、福井先生方を囲んでディナーミーティングを行いました。ここでも、手術手技に関するを中心に話をして頂きました。

また、医療的なことだけではなく、社会的なことプライベートなこと、様々な分野の話をして頂き、とても有意義な時間を過ごすことができました。

食事は、福岡ならではの食材を堪能して頂きました。



～最後に～

私は、今年の2月に北海道大学へ訪問し安田教授の手術見学をさせて頂きました。この時の気持ちが新鮮な内に当院での安田教授の手術が実現し、とても充実した貴重な経験をさせて頂きました。

私は今回 ACL 再建術の器械出しを2例させて頂きました。とても緊張している私に気軽に声をかけて頂き、術場の雰囲気や和ませていただきました。

手術中は、より解剖学的に行うための技術の一つ一つ丁寧に説明して頂き、改めて安田式 ACL 再建術を学ぶことが出来ました。

ひも師（グラフト作成される専門家）をされた近藤先生は、熟練された技で素早い中に正確・丁寧な筆裁きでグラフトを作成され、安田教授との“あ、うんの呼吸”で手術は進めてあり、改めてプロの成せる技をたたきつけられました。

また、この日は会食の場を設けて頂き、世界で誇れる Dr の貴重な経験話や医療人としての心得など、面白い話も踏まえながら終始聞き逃すことの出来ない、とにかく内容の濃い時間を過ごさせて頂きました。

今回を機に、また改めて医療人としてまた専門看護師として絶え間ない努力が必要と初心に戻るととてもいい機会になりました。本当に貴重な経験をありがとうございました。

看護師 樋口

私自身、安田教授の手術見学をさせて頂くのは、北海道大学での見学に続き2回目でした。手術中は、ポイントを伝えながら進めて頂いており、見学をしても進行状況を把握しやすかったです。世界に誇れるドクター、安田教授の手術を見学させて頂き、とても刺激を受けました。理学療法士としてどうあるべきなのか、膝専門のクリニックにいるスタッフとして必要な知識は何なのか、多くのことを考えることができるきっかけとなりました。

短い時間ではありましたが、とても充実した時間を過ごす事ができ、貴重な経験を頂きありがとうございました。今回、学んだことをこれからの日々の臨床に活かしていければと思います。安田教授、近藤先生、福井先生、本当にありがとうございました。

理学療法士 池田

今回、私は光栄な事に北海道大学の安田教授の前十字靭帯再健術の手術見学をさせていただきました。安田教授といえば、海外の雑誌にたくさんの論文を発表されており、日本を代表する医師の一人です。そんな大先生の手術を間近で見学出来た事は大変貴重な経験でした。論文に載っていないような、手術のちょっとした工夫やポイントがあり大変興味深かったです。また、手術の後、わずかな時間でしたが、安田教授から前十字靭帯再健術の理論を話していただきました。

私自身にとって、見学の時間はあっという間であり、大変貴重であり、有意義な時間でした。今回、観たことを自身で昇華し、臨床で活かしていきたいと思います。

理学療法士 渡辺

北海道大学の安田和則教授をはじめ、近藤先生、福井先生、遠いところをわざわざ広川までお越し頂きありがとうございました。

今回、膝の巨匠である先生方にお会いでき、お話させて頂く機会を頂けたことは非常に光栄であり、感激致しております。自分は手術を施行するわけではないですが、1つ1つの行為にとってもすごく考察されて、研究されているところはリハビリの中においてもまだまだ自分には半人前であることを再認識させて頂きました。今度の臨床スポーツ医学会でも御講演されるとのことでしたので、恥ずかしくないような発表を自分ができるようしっかり準備して望みたいと思います。本当にありがとうございました。

理学療法士 中畑

私は、夜の食事会に参加させて頂きました。安田教授、近藤 Dr、福井 Dr 達と江本院長、張 Dr、湯朝 Dr のディスカッションを聞く事ができました。前十字靭帯再建術に関するお話が多く、勉強になりました。手術室での失敗例をとにかく写真に残して、『99 枚使えなくても 1 枚は研究等に使える物があるとするならば写真を撮り続けるべきだ』と仰っていました。また違う例えでも、『99%可能性が無いことでも、1%の可能性を信じて物事を行う』と仰ってました。安田教授のお話には刺激を受けました。今後の業務や学会に向けての研究に活かしていきたいと思います。貴重な経験をさせて頂き感謝致します。

理学療法士 長谷

安田教授は、前十字靭帯再建術における二重束再建で世界的にも有名な、日本を代表する Dr であります。今回のような機会は、自身の PT 人生においても非常に貴重な経験値となったと思います。実際に、先生方はすさまじい『オーラ』をまとっており、権威を感じたのが、対面時に感じた率直な感想です。今回自分は手術を見学する機会はありませんでしたが、食事会で先生方とご一緒させて頂き、医学に関することだけでなく、幅広い分野で話をされており、大変勉強になりました。

自分自身も、医学的知識の向上を目指して行くのは当たり前のことですが、現在の社会情勢から、様々な分野における最近のトレンドなど、幅広い知識を身に付け、臨床に応用していけ

るよう、日頃から様々な事に対して敏感にアンテナをはり、情報収集していく癖をつけていくことで、自身のキャパシティを向上できるよう努めていこうと考えます。また、今後このような機会があれば、今度は手術見学させて頂ける様、日々自身のスキルならびに知識の向上に精進したいと思います。

今回はこのような貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

理学療法士 平石

